

「管楽器教育における口腔筋機能療法(MFT)の導入研究」

柳下 柚子

《概要》

本活動は、口周りの筋肉を強化する歯科訓練の口腔筋機能療法(MFT:Oral Myofunctional Therapy)を管楽器教育に取り入れる効果を研究する。本来 MFT は小児の矯正治療のサポートや高齢者の誤嚥性肺炎を予防するための訓練だが、管楽器演奏でも口周りの高い筋活動が認められており、習得が難しい管楽器演奏時の口の形(アンブシュア)の学習をサポートする効果が大きいと期待できる。台東区の小中学校の吹奏楽部に協力を依頼し、東京医科歯科大学の指導の下で MFT を楽器練習の準備運動として実施する。訓練効果は専門奏者による官能評価に加え、高速度カメラによるアンブシュア撮影や演奏音の音響解析なども実施し、MFT の訓練がアンブシュアの学習に与える影響を科学的に追究する。

《目的・達成したい成果》

本活動の最も大きな目的は、歯学的知見に基づいた効果的な管楽器指導法を新たに確立させることである。アンブシュアを形成する口周りの筋肉や歯列には個人差があるため指導が難しく、これまで科学的根拠に基づいた指導法は確立していない。特に多くの子供たちが管楽器を演奏する学校の吹奏楽部では、専門奏者による定期指導を必ずしも受けられるわけではないため、望ましくないアンブシュアを定着させてしまう子供が非常に多い。本活動では子どもからシニア世代まで誰でも気軽に取り組める MFT のトレーニングを管楽器教育に組み込むことで、学習環境を問わず簡単に活用できる有効な指導メソッドを新たに確立させ、管楽器指導の質の向上や地域における教育格差の改善に貢献したい。

《将来の夢・今後の展望》

本活動によって管楽器学習に効果的な MFT のトレーニングを追究し、歯学的知見に基づいた新たな指導メソッドを広く教育現場に発信することを目指している。特に日本では専門奏者ではない学校の教師などが管楽器指導に携わることも多いため、外見からは構造が分かりにくいアンブシュアの指導法研究はこのような指導者にとっても大きなメリットとなる。学ぶ側にも教える側にも分かりやすい学習方式を確立させることで、両者が最もつまづきやすいアンブシュア学習をサポートし、管楽器を一生の趣味や生きがいのための選択肢としてもっと身近に感じられるよう尽力したい。

柳下柚子 (サクソフォン)

洗足学園音楽大学を卒業後、東京藝術大学大学院博士課程に進学。フランスでサクソフォンの初等教育を研究し、複数の企業でビギナーの育成法や教材制作のマネジメントを行うほか、音楽大学生などのサクソフォン指導者を対象とした教育法セミナーも主催している。文化庁主催の文化芸術による子供の育成事業や、地方創生 SDGs 官民連携プラットフォームに参加。0 歳児からの親子コンサートや楽器体験事業を企画し、全国の保育施設や小中学校にてコンサート活動を展開。特に音楽の専門教育が行き届かない地域への演奏会、教育サービスの提供に携わっている。また、映画「青空エ

ール」「響け！ユーフォニアム」など多数のメディアのレコーディングにも参加。第1回 K 国際サクソフォンコンクール第3位。第11回ジュニアサクソフォンコンクール入賞。国際音楽芸術振興財団、山田貞夫音楽財団、福島育英会、ヤマノ文化財団など多くの公益財団法人より奨学金や研究費を授与されている。茨城県立水戸第三高等学校音楽科非常勤講師。Bags 専属アーティスト。2020年12月、サクソフォン初心者のための新しいデジタル教本「Yuzu Yanashita New Saxophone Method vol.1」をリリース。